六郷 ろくごう

ひとりだちと豊かさを育み未来を築く

学校便り５月特別号
令和５年５月１９日
松阪市立嬉野中学校
校長　山下　隆久

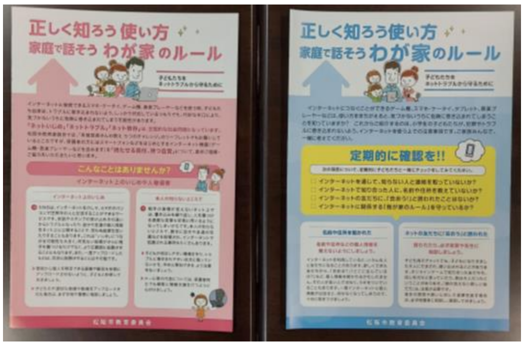
ネットトラブル多発！持たせる責任 持つ自覚

Mcknna＆Bargh の調査によれば、ネット利用者の 94%が友人や家族とのコミュニケーションにネットが有効だと感じているそうです。このネットがコミュニケーションツールとして良いという理由の一つとして、家族や友人との対人関係を深めるということ以外に、ネット上で出会った人たちから豊かな情報を得たり、ネット上で出会った人たちと協力して困っている人を助けたりすることができるからと答える人が多いそうです。

しかし、ご存じのように、ネットトラブルが後を絶ちません。インターネットに接続できるスマホ・ケータイ、ゲーム機、音楽プレーヤーなどを使う時、利用者自身はトラブルに巻き込まれないように、しっかり対応しているつもりでも、巧妙な手口によって、気づかないうちに危険に巻き込まれてしまう可能性があります。

嬉野中学校でも、学年や学級など LINE グループでのトラブルが多く発生しています。「ネットいじめ」「ネットトラブル」「ネット依存」は全国的な社会問題です。

松阪市教育委員会が「本居宣長さんの教え５つのチャレンジ」や「子どもたちをネットトラブルから守るために」のリーフレットで伝えていただいているように、スマートフォンなどをはじめとするインターネット機器（ゲーム機などを含みます）を「持たせる責任」が保護者の方にあり、それを「持つ自覚」が利用者に必要です。



中学生が利用者となる場合は、「持つ自覚」を育てる責任も保護者の皆様が担います。学校では、本校１年生で実施するＤＱ学習などネットモラルを学ぶ機会をつくること、そして、生徒のみなさんがネットトラブルに巻き込まれた時に事実を確認し

て誤解があったらその誤解を解き、友だち関係が崩れたらその関係修復の手助けをします。しかし学校が無断で LINE の内容を確認したり、トラブルを避けるためにスマホ・ケータイの使用を止めることはできません。その対応はご家庭でお願いすることとなります。

学校では、子どもたちが「人と人との関係」をより良く築いていけるよう指導をいたします。保護者の皆様とともに、子どもたちの「ひとりだち」と「豊かさ」を育み、未来を築いていきたいと考えています。よろしくお願いします。

利用者のみなさんへ

＜発信者のリスク＞

日常会話と同じ感覚で、ネット上に投稿や書き込みをしていませんか？
発信者には、受信者が正しく受け取れるように、情報を正確に伝える責任があることを意識しているでしょうか？

◆自分が発信した情報の責任は自分にある
　単なる呟きや投稿でも、内容次第で社会的信用を失い、将来に影響を与えます。

◆一生消えない情報（書き込み、写真など）
　一度ネットに公開したら、消すことは限りなく不可能です。

◆個人を特定できる情報発信の危うさを知る
　悪意をもった人には、小中学生のＳＮＳから友だち関係を探るのは簡単です。

＜受信者のリスク＞

最近のインターネットでは、その人の興味関心に合う情報やコメントが優先的に表示されるようになっているのを知っていますか？

◆情報が偏る「フィルターバブル」
　情報のふるい分けにより、自分には有益で見たい情報が優先的に表示されるため、他の情報が表示されにくくなります。そのため、興味関心が偏りやすくなる傾向があることを知っておきましょう。

◆偏りを増幅する「エコーチェンバー」
　価値観の似た人同士の交流の繰り返しで、考えの偏りが増幅・強化されます。

有益なコミュニケーションツールを　有効に活用して
　温かい人と人との関係を築いていくために
　　　　みんなで考えていきましょう